

1. 授業の概要(ねらい)

こんにち世界の中においてアジア地域はいつそう存在感と重要性を増しただけでなく、日本との関係もより密なものとなっています。この授業では中国を中心とした東アジア地域の、主に19世紀以降の近現代史について学びます。多様なアジア地域の歴史・文化に対する理解を深め、歴史的背景をふまえた世界認識と未来への視点を養うことを目標とします。

この科目は人文科学・社会科学や自然科学を背景として、国際性や異文化理解のための知識と理解を涵養するものであり、総合基礎科目の学修目標1と3に対応します。

2. 授業の到達目標

現代のアジア諸地域の概況や現状など基礎知識を身につけ、簡潔に説明できることをめざします。

現在の情勢にどのような歴史的経緯があるか、また「近代化」による変化について、簡潔に説明できることをめざします。

さらには現代アジアの政治・社会・国際関係を構造的にとらえなおす視点を獲得することを目指します。

3. 成績評価の方法および基準

期末試験またはレポート(50%)及び平常点(50%)より評価します。平常点はLMSの課題履行状況などから判断します。

評価に関わる試験またはレポート・課題の解説については、LMS上で解答例や評価観点を解説することにより行います。

4. 教科書・参考文献

参考文献

特定の教科書は使用しません。講義は資料を配付しますが、授業理解の補助として中国史の概説書を準備することを推奨します。詳細についてはその他の参考文献含め授業内で紹介していきます。

5. 準備学修の内容

講義は基本的な事実関係を確認している前提で行い、枠組みや流れ、因果関係などの概念的説明が多くなります。

基本的事項は概説書の該当箇所を事前に読んで予習しておいてください(30分～1時間程度)。

授業後は解説した内容と概説書の該当箇所の記載を再度確認したうえでまとめ、紹介された参考文献に目を通すなどによりさらに理解を深めるなど、授業時間外で学習を進めることは必須です。(1時間～30分程度)

授業の進行と並行して一定の単元毎にLMSを利用した理解度を測る課題を設定するので、授業時間外に実施してください。そのためにも復習には一定の時間が必要です(30分程度)。

具体的な要領については授業時に随時提示していきます。

6. その他履修上の注意事項

資料はLMS揭示により配付の予定です。

教室内では、脱帽、スマートフォンなど電子機器は使用を控え、私語を慎むなど講義の妨げにならないよう静粛にして下さい。

授業時間中で説明できる事項には限りがあるので、背景や関連事項などについては授業時間外に図書館で紹介した参考文献に実際に目を通すなど、各自の能動的な学習が必要になります。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション:現代アジアと日本のかかわり
- 【第2回】 伝統中国の世界観と統治体制
- 【第3回】 伝統中国の地域社会
- 【第4回】 基層社会の諸相:近代化とその前後
- 【第5回】 清朝中期以降の構造変動
- 【第6回】 辺境の危機:地方と中央
- 【第7回】 中国ナショナリズムの起源
- 【第8回】 民族主義と国家建設
- 【第9回】 流動する民衆
- 【第10回】 アジアにとっての社会主義
- 【第11回】 東西冷戦と「中国」社会主義①冷戦下の国家建設
- 【第12回】 東西冷戦と「中国」社会主義②「革命」の遺産
- 【第13回】 現代中国の論理①対外行動と国内事情
- 【第14回】 現代中国の論理②伝統の現代的解釈
- 【第15回】 まとめ:現代的「伝統」の復興